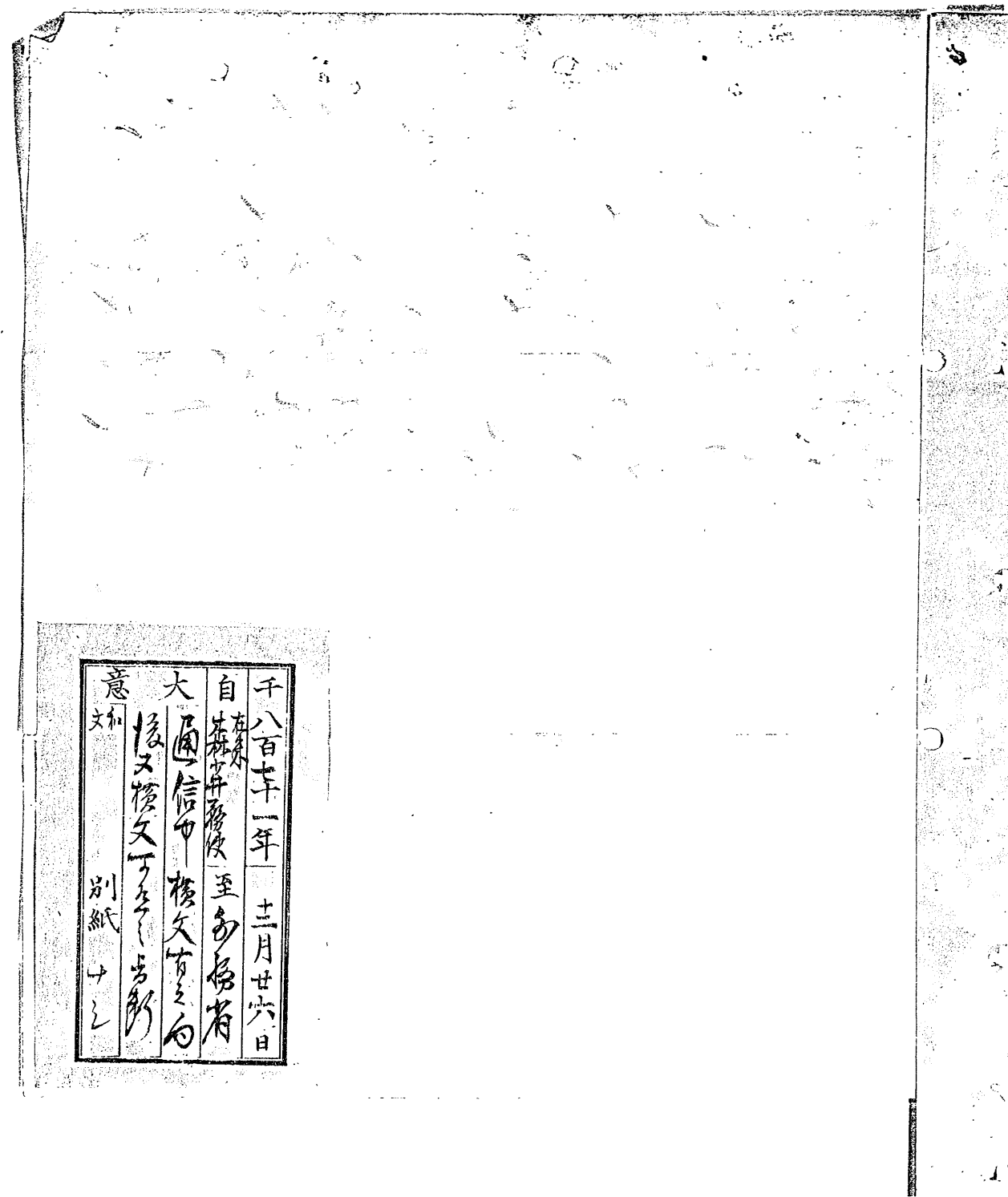


明治四年

在米森少弁務使ヨリ
通信文英文其係ノ旨報知

7-0019

0060



千八百十一年 三月廿六日
自 森田屋 至 森田屋
大 國 信 中 横 文 有 之 由
後 又 横 文 可 多 々 考 察
意 文 知 別 紙 十 二

① 昨夜書き通し内突又うて認め
 りてのあり向後も同様としお便し
 をとるに水敷り所者しお便しと存
 事柳よりて馬込迄に能く書きたる
 とは成り且前寄彼書欠翻澤より元
 々無し事実なりし仍る書不致
 誤りとも思惟されし何故なり
 ありお便しと存しと存しと存し
 と存しと存しと存しと存し

十
十
五

森 少 卿 張 氏

多智有方